



こんな本も読んでみましょう

選者：日本女子大学家政学部児童学科 教授 石井 光恵

日本の
昔話

「しっぼのつり」

きつねとかわうそのだましあい。さいごにわらうのは…？

かわうそは、きつねにだまされて、さかなをよこどりされてしまいます。かわうそは、きつねにさかなのとりかたをきかれたので、「さむいばんにいけにしっぼをつけておけばいい」とうそをおしえます。それをしんじたきつねがしっぼをいけにつけてまっていると、いけがこおってしっぼがぬけなくなって…。

日本の
昔話

「にんじんとごぼうとだいこん」

だいこんが白くなった、そのわけは？

にんじんもごぼうもだいこんも、むかしはみんなまっ白でした。どろんこあそびをしてよごれてしまった三人はいっしょにふろにはいりました。にんじんはあついのをがまんして、のぼせるまでじっとゆにつかっています。ごぼうは「あちちっ」とからだもあらず、とびだして。だいこんは、ゆっくりゆにつかり、きれいにあらって…。さて、だいこんが白くなったわけは…？

日本の
昔話

「わかがえりの水(みず)」

よくばりすぎは、こまったもの！

むかし、じいさんとばあさんがいました。ある日、じいさんが山できれいないけを見つけ、その水をのむと…。なんと、こしがのび、しわがきえ、わかものにかわっていました。ばあさんもさっそくそのいけの水をのみに。ばあさんはよくばって、その水ががぶがぶといっぱいのんだので…。

日本の
昔話

「見(み)るなのざしき」

「見てはいけない」といわれると、どうしても見たくなり…

山でみちにまよったわかものが、いえを見つけてとめてもらいます。きれいなむすめが、みたこともないごちそうで、もてなしてくれました。そのむすめが、「このやしきにある一ばんおくのへや」だけは見てはいけないといいました。しかしわかものは、いいつけをやぶって見てしまいました。さて、どうなったでしょう？